

O b u k u r o

E a s t G a t e T o w n

大袋駅東口周辺地区まちづくり構想2022
（大袋駅東口周辺地区まちづくり協議会）

大袋駅東口周辺地区まちづくり協議会は、

令和元年6月より16回の協議会開催やアンケート調査を行い、
また東武沿線4地域の視察研修を実施しました。そして、基本的
なまちづくり構想のコンセプトを作成しました。当協議会はその
実現をめざし、今住んでいる人たち、次世代の人たち、他地域の
人たちからも「住みやすいまち」「住みたいまち」といわれるよ
うなまちづくりをめざします。

わたしたちの未来は、このまちの未来

家への帰り道、駅の改札を抜けた先の窓から、どこまでも続いているような線路が見えた。

「そうか、帰ってきたんだ。」
どこまでも続く線路を見ていて、このまちは止まり木のようなまちだと気づいた。

おだやかに暮らしをつむいでいくまち、このまちで、どんな未来を描いていこうか。わたしたちの未来のひとつひとつが集まって、このまちの未来が創られていく。

目次

◆大袋駅東口って、こんなまち	P. 1
◆まちづくりのコンセプト	P. 2
◆コンセプトを実現するために	P. 3
◆まちづくりの方針図	P. 4
◆まちづくりの考え方	P. 6
☆駅前のまちづくり	P. 6
☆アクセス道路	P. 8
☆商業エリア、住居エリア	P. 10
◆構想まとめ	P. 12
◆構想の提出にあたって	P. 14
◆まちづくり構想に寄せて	P. 15
◆構想提出者一覧	P. 16



◆ 大袋駅東口って、こんなまち

いまは、こんなまち

- ・ おだやかな住居エリア
- ・ 自治会活動が活発
- ・ 子どもの見守り活動に熱心
- ・ 都心まで通勤がしやすい
- ・ 大きな道がなく、他の地域からの車両が進出してこない
- ・ 駅の東側と西側で異なったまちなみ
- ・ 駅前に大きな広場がなく、閑静な雰囲気
- ・ 起伏が少なく、平坦で歩きやすいまち

もっと、こうなったらいいな

- ・ 住居エリアの雰囲気はそのままに、地域のイベント、交流の場となる全世代のコミュニティの輪を広げられるスペースの確保
- ・ 大きな道にアクセスしやすいまちづくり
- ・ 地域内の交通をもっとスムーズに、安全なものにするための道路
- ・ 地域内で住民レベルでイベントが開かれるまちにしたい

◆ まちづくりのコンセプト

5つの柱 — 駅前広場と道路を中心とした、安全で機能的なまち

- 1 駅を生活圏とする人たちが利用しやすい、安全で機能的な駅前広場の実現
- 2 駅前からアクセスしやすく、地域内を安全に通行できる道路の実現
- 3 地域住民が利用しやすく、住民の交流の場となる「まちなかスペース」の実現
- 4 地域住民が安心、安全で快適に暮らせるまちなみの実現
- 5 今、地域に暮らす人たちと未来に続く人たちが、継続して対話できるコミュニティの確保



◆ コンセプトを実現するために

まちづくり

①駅前

- ・送迎時の乗降に適したデザインの実現
- ・人が集まれる安全で快適なスペースの実現
- ・大型車両の進入を可能とする構造の実現

②道路

- ・国道4号線にアクセスしやすい道路の実現
- ・安全で通行しやすい道路網の実現

③スペース

- ・人が集まれる「まちなかスペース」の実現

④防災・住環境・商業

- ・災害時に被害が出にくいまちなみの実現
- ・商店を利用しやすいまちなみの実現

住民活動

①コミュニティ

- ・多世代が参加しやすいコミュニティの実現
- ・子どもの見守り活動を地域住民主体で実施

②環境・美化・防災活動

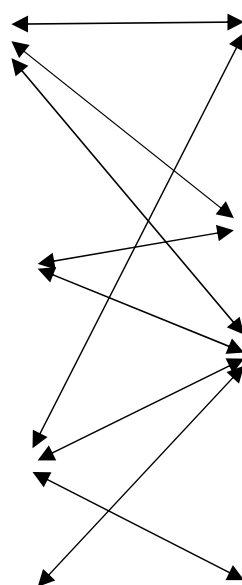
- ・まちなかの清掃活動、防災訓練を実施

③にぎわい

- ・まちなかにある商店の積極的な利用
- ・「まちなかスペース」を活用した、地域主体のミニイベントの実施

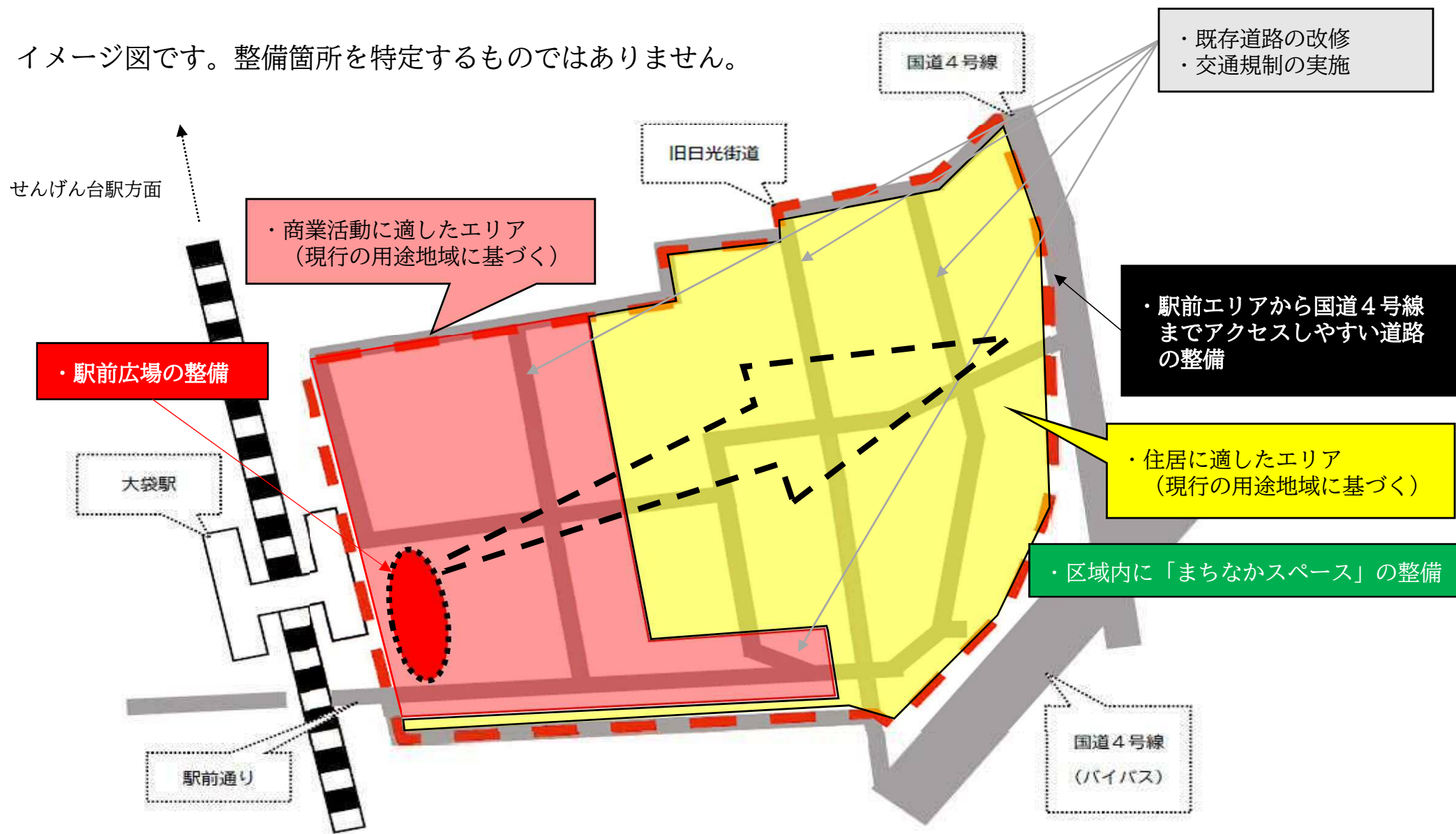
④まちづくりミーティング

- ・今、暮らす人だけでなく、「未来世代が暮らしやすいまちづくり」の実現を目指して、まちづくりについて継続して対話できる場の実現



◆ まちづくりの方針図

イメージ図です。整備箇所を特定するものではありません。



協議会



講演会



視察



◆ まちづくりの考え方

☆駅前まちづくり（駅前広場）

現状

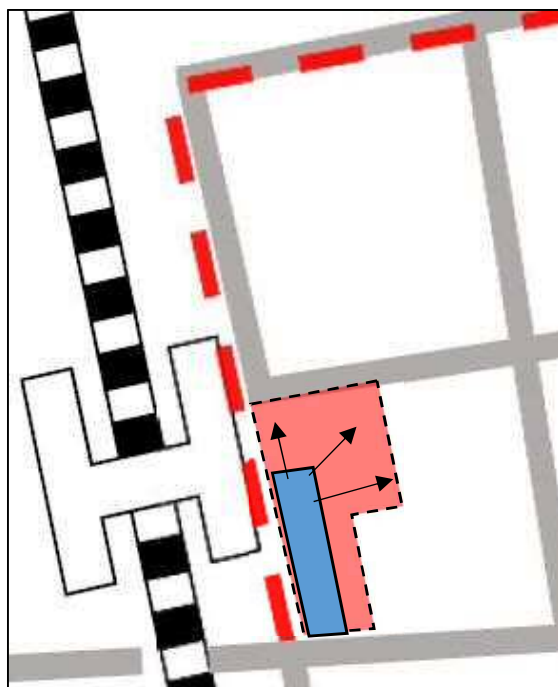
- 1 小規模の商店が点在しているものの、人が集まるスペースとして活用できる場所が少なく、歩行者が安全に歩けるスペースや荷捌き場、公園のような人が集える場所の確保が望まれます。
- 2 タクシーは入れるものの、一般車両の乗り入れが難しく、高齢者や障がい者、幼児などの送迎時に安全に乗り降りができる駐車スペースの確保が望まれます。

将来

- 1 日頃から地域内の様々な世代が集まり、他地域から訪れる人が利用できる空間として、また災害時には一時的な避難場所として利用できる空間として、ロータリーの整備と併せ、商店の再配置や荷捌き場の設置、イベント開催が可能な規模の広場などの整備が必要です。
- 2 歩行者、自転車、一般車両や公共交通といった自動車及安全に利用できる駅前空間とするため、自動車等の交通に配慮したロータリーと、歩行者専用スペースを一体的に設ける必要があります。
- 3 駅前広場に車両が滞留することがないように、交通規制などを活用して、交通導線の整備が必要です。

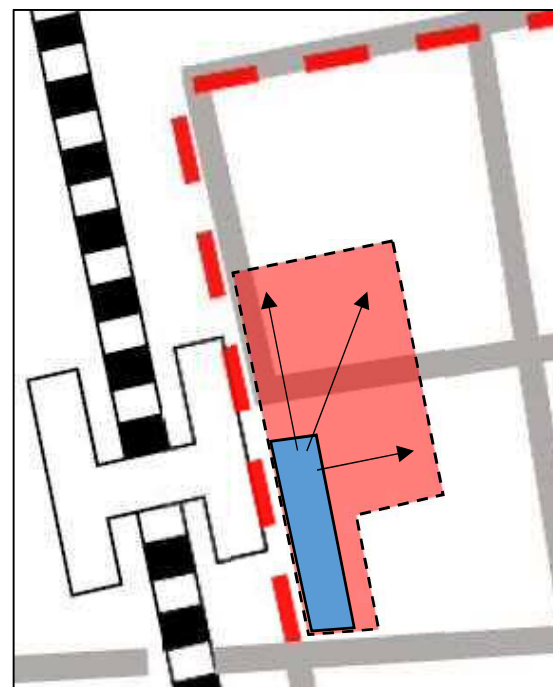


イメージ図



想定ケース 1

- ・既存の駅前部分を、北側と東側に拡張
- ・ロータリー機能とイベントエリア（フリーマーケット）を兼ねたスペースの整備
- ・商店街とのアクセス性を考慮したスペースの整備
- ・タクシー、一般車両の乗降性を考慮したスペースの整備
- ・スムーズな交通を実現するため、駅前の周辺道路の一方通行化



想定ケース 2

- ・既存の駅前部分を、北側の道路よりさらに北に拡張するとともに、東側に拡張
- ・駅前の南側をふれあい広場とし、駅の正面と北側をロータリーとして整備
- ・平常時は住民のコミュニティの場として、災害時には、住民の一時避難場所としても活用できるスペースの整備
- ・地権者が入居できる建物の整備



☆アクセス道路

現状

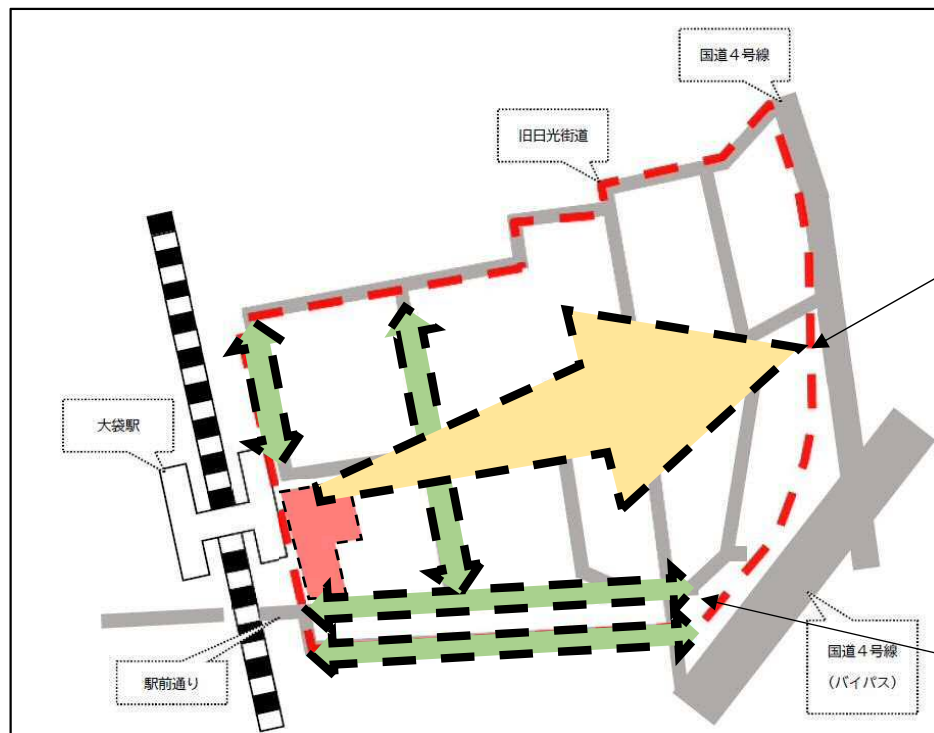
- 1 駅前道路については、踏切を起点として通勤・通学時間帯には渋滞が発生しやすい状況です。
- 2 電柱が道路側に設置されているため、道幅が狭く、歩行者・自転車・自動車の交通が混在しており、雨天の時には特に危険なため、道路の改修が望まれます。
- 3 国道4号等の幹線道路から、大袋駅までアクセスできる広い道路がなく、普段から駅を利用する人々が通行しやすい道路の実現が望まれます。

将来

- 1 歩行者や自転車、自動車が安心・安全・円滑に通行できることをめざし、道路の拡幅や電線類の地中化など既存道路の改修が必要です。
- 2 駅前や地域内全体の利便性の向上を図るため、国道4号等から駅前までアクセスしやすい道路の整備が必要です。



イメージ図



イメージ図です。整備箇所を特定するものではありません。

駅前広場～国道4号線までのアクセス道路

①道路の構造と安全な交通の確保

- ・十分な歩行スペースの確保
- ・自動車、自転車と歩行者との分離
- ・片側一車線の相互通行
- ・道路の交差部を少なくする道路の設計
- ・公共交通機関に配慮した道路の設計
- ・右折レーンの確保
- ・メンテナンスしやすい材質の採用

②大型車両の交通に配慮した道路の設計

- ・中型～大型バスの交通も可能となる幅員を確保

既存の道路

- ・道路の拡幅が可能な箇所については、拡幅を実施
- ・路肩に設置された電柱の移設による有効幅員の確保



☆商業・住居エリア

現状

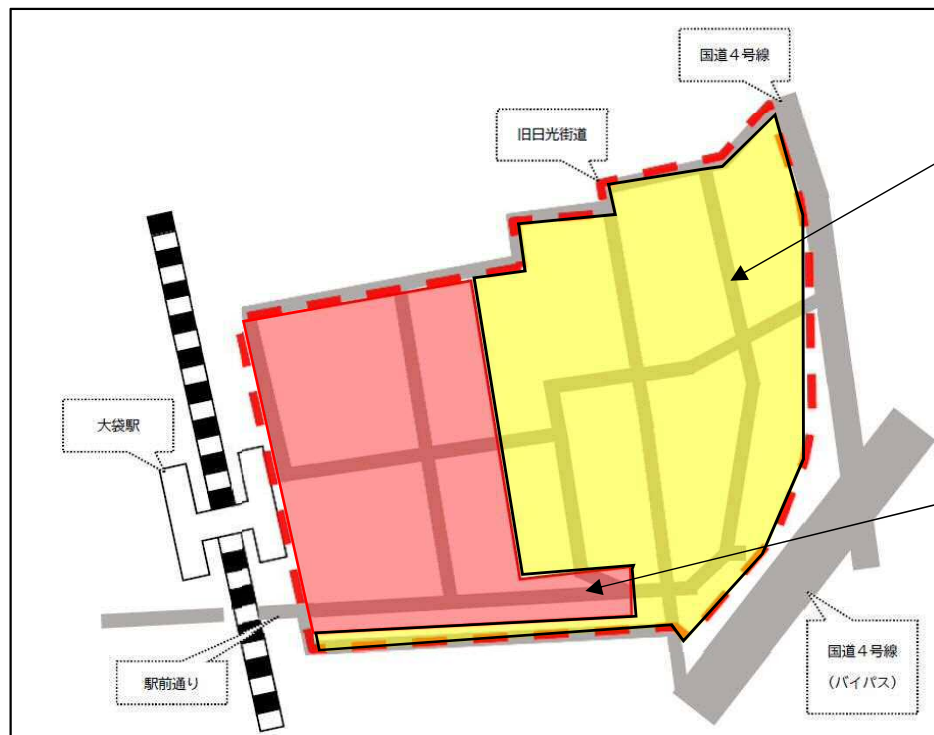
- 1 地元密着型の商店があり、駅近くには閑静な住居エリアが広がっていますが、日用品等の買い物については不便な面があります。
- 2 都心までアクセスしやすい地域で、自治会活動や子どもの見守り活動などの住民主体の活動が盛んです。また、獅子舞や桐箱、だるま製造といった伝統文化などが根付いている地域です。

将来

- 1 商業エリアは、買い物がしやすく人が集まりやすい地域とするため、商店街の集約化や「まちなかスペース」といった小規模な広場の設置など、商業的な地域としての特色を生かしたまちづくりが必要です。
- 2 住居エリアは、住民主体の活動の中心として、また伝統文化などを継承・発展していく地域として、持続的なまちづくりを進めていく必要があります。



イメージ図



イメージ図です。整備箇所を特定するものではありません。

住居エリア

- ・ 住みやすい閑静な住宅街を維持する
- ・ エリア内のスペースを活用し、住民が憩えるスペースの確保
- ・ 住民相互のコミュニティの活性化
- ・ 交通規制などを活用し、安全で円滑な交通の実現

商業エリア

- ・ 駅の利用者が利用しやすい、駅前にアクセスしやすい位置に商店の立地を図る
- ・ 駅前に、人が集まれるスペースを確保する
- ・ 地域住民主体のミニイベントを開催できるスペース、仕組みを整備する



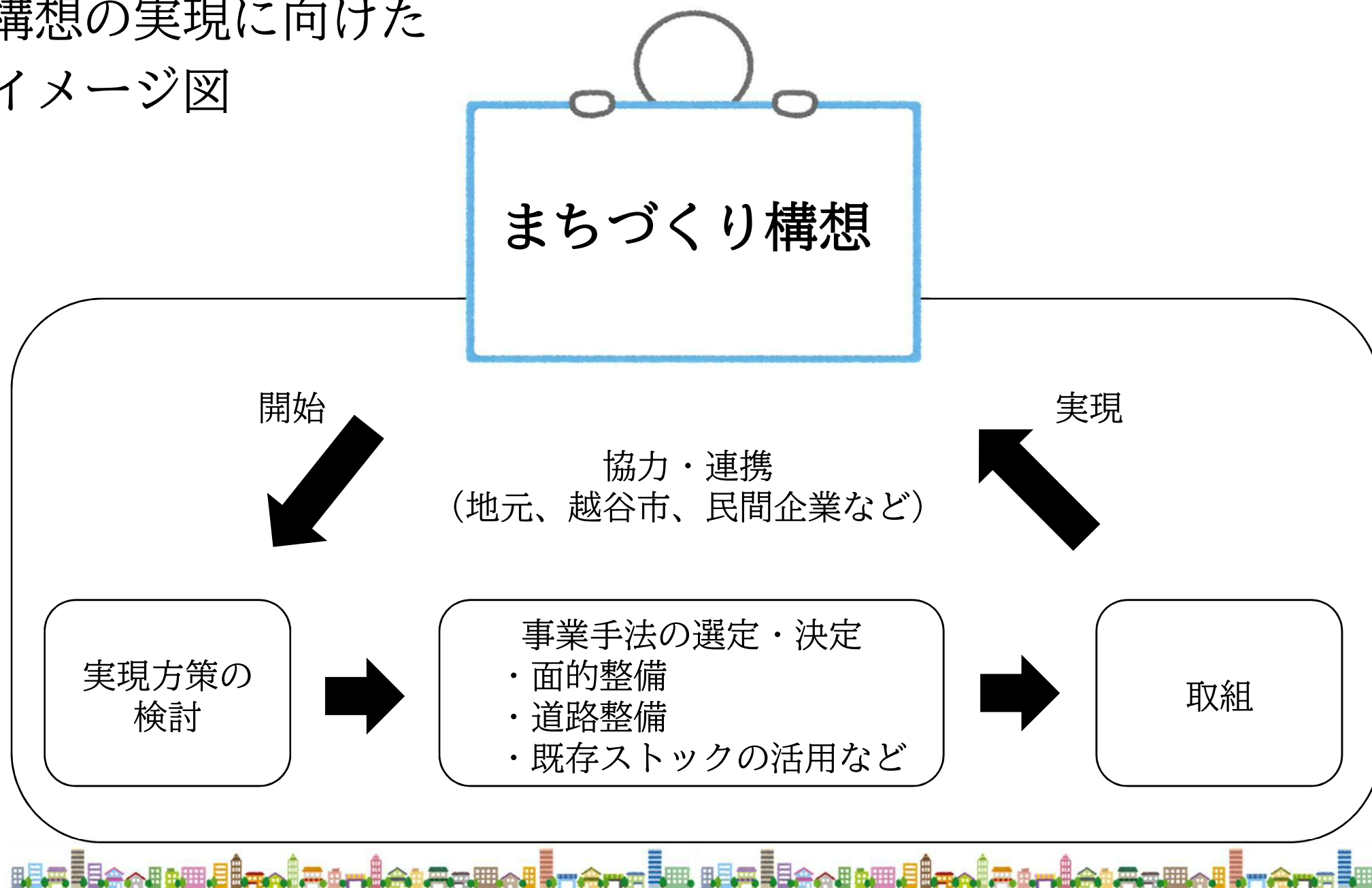
◆ 構想まとめ

駅前広場と道路を中心とした、安全で機能的なまちづくりを進めるため、地域住民として、以下の通り提案します。

- 1 駅前に、一般車両や公共交通の乗り入れに配慮したスペースや、買い物や待ち合わせの際に利用できるスペースを創設するため、駅前にロータリーの設置などの整備が必要です。
- 2 駅前を、人が集まる魅力ある空間とし、災害時には一時避難場所として活用できる場所とするため、駅前広場の創設や、災害による被害を減らす仕組みが必要です。
- 3 安心・安全・円滑に通行できる道路の実現をめざすため、既存道路の改修や国道4号等と駅前をつなぐアクセス道路の整備が必要です。
- 4 都心までアクセスしやすい立地を生かすため、駅前地域に商業的な機能を集約するとともに、既存の住居エリアについては地域活動の中心地域として、また伝統文化などを継承・発展させていく地域として、持続的なまちづくりをめざします。



構想の実現に向けた イメージ図



◆ 構想の提出にあたって



大袋駅東口周辺地区まちづくり協議会
会長 細沼 淳平

このたび、令和元年度から大袋駅東口周辺地区まちづくり協議会を立ち上げて以来、3年余り協議を重ねた結果、まちづくり構想を策定することができました。

これもひとえに、協議会の皆様をはじめ、関係各位のご協力の賜物と深く感謝を申し上げます。

大袋駅が大正15年に開業して以来、駅周辺の地区について宅地化が進み、開業前の農地が広がっていた往時の面影はありません。しかしながら、宅地化が進んできている当地区において、社会情勢の変化に合ったまちづくりを時代に合わせて実施していくことも大切な視点であろうと感じているところでございます。

当地区の未来を、豊かで実りあるものとするため、その礎となるまちづくりについて「行政任せ」とせず、まちを使うユーザーとしての視点から議論したことにより策定いたしました本構想を基礎とし、行政や地元住民、権利者の皆様が手を携えて「子や孫の代まで誇れるまちづくり」の実現をご祈念申し上げ、挨拶いたします。

◆ まちづくり構想に寄せて



日本大学 教授
大沢 昌玄

スタートラインに立った今：まちを次の世代に引き継ぐために

2005年の大袋駅東まちづくり協議会の発足から検討を重ね、2019年には大袋駅東口周辺地区まちづくり協議会が設置されました。その後も議論を重ねながら、今般まちづくり構想が示されたことに、まずは敬意を表する次第です。

しかし、まちづくり構想策定はゴールではなく、スタートラインに立ったに過ぎません。長期的視点に立ったまちの将来像を示したものであり、これを踏まえ実現に向けての道筋を検討し提示する必要があります。具体には、実現化に向けた時間軸と主体（まちづくりの場面に応じた役割分担を含む）の設定です。だが、いつまでに検討を行うのか、例えば、地元と同意のもとで駅前広場と接続道路の計画は市が行い、関係者の合意形成は地元が中心となって行うということを盛り込んだ、アクションプランを作成する必要があります。なお、これらは全てを一度に行うのではなく、小さいことからコツコツと行っていくことが肝要です。規模の大小は関係ありません。小さなことの積み重ねが大きなことに繋がります。

今回のまちづくり構想がまちづくり実現化に向けたVersion.1とするならば、今後検討を重ね、地元のみならず合意形成しながら、まちづくり実現化の道筋を示し、Version2、Version3と進化・深化していくことが必要です。まちの課題を今の世代で解消し、魅力的な大袋駅東口のまちが次の世代に引き継がれていくことを強く望みます。

大袋地域の皆さんの長年の取り組みに、ほんの少しですが関わったことを光栄に思っております。このまちづくり構想は、地域の皆さんの長年の活動の中で検討を重ね、そして導かれた「方向性」と言えるものになります。都市計画は、長期的なビジョンに立った政策となりますが、地域の皆さんが主体的に進めるまちづくりは、短期的にすぐに実施できるものも、多々ありますので、引き続き地域でよく議論し、市役所と連携しながら進めてゆくことが必須となります。このまちづくり構想を地元の皆さんで共有し、できることを探しながら、地域の力で進めてゆくことが一層求められます。協議会の場を継続し、地域での学びをより一層深めていってください。

都市・地域の姿は、少しずつ変化を遂げながら未来へ向かって描かれていきます。今の問題だけでなく、少し先の問題、さらには遠い将来と、各時点で多くの課題と向き合うことになります。現在地域にお住まいの方々をはじめ、先々地域を支えてゆく若者も巻き込み、地域の皆さんの手で、より良いまちの姿へ繋げていってください。



長崎経済大学 准教授
長野 博一

◆ 構想提出者一覧

大袋駅東口周辺地区まちづくり協議会

会長 細沼 淳平

副会長 庄司 勝美

副会長 藤田 文夫

協議会員	荒井 勝美	井上 亮二	岩本 としえ	臼倉 誉治	大熊 和男	大崎 睦子・小芦 智亜貴
	小田嶋 良一	加藤 幸枝	川島 二六	川村 耕治	栗原 和紀	芝崎 俊雄 瀬尾 富美雄
	平 美陽子	高上 尚樹	高鳥 剛	高橋 護	玉木 裕二	千野 俊一 鶴丸 農男
	中島 一雄	中島 慎一	長野 広	新坂 喜助	服部 成司	鳩貝 サダ子・鳩貝 健治
	平久江 真治	藤井 健治郎	藤田 稔文	松崎 幸治	松田 眞治	三田 礪三 室橋 仁
	八木 三雄	山崎 隆	渡辺 征男			

(50音順 敬称略)

構想の策定にあたり、会員以外の多数の方からもご協力いただきました。



大袋駅東口周辺地区まちづくり協議会

令和4年（2022年）11月22日